

株式会社 アスター

アイデアと技術を生かし、 地域の役に立つものづくりを

“下請けのものづくり”から脱却し、
自力で製品を生み、自力で販売先を探る
“開発のものづくり”に果敢に挑む。

自社開発製品で勝負

独創的なアイデアと技術でユニークなオリジナル製品を次々に開発している株式会社アスター。

同社の「カシメガン」は、火を用いずに金属を接合できる製品。同社が開発した「強高度カシメ溶接技術」を使えば、高温の熱や火花を出すことなく、わずかな電力で簡単に金属を接合できる。また、今年6月には、新しいモーターコイルを発表。従来品に比べ3倍の出力がありながら、省エネを追究して小型化に成功した。

「社会の変化が激しい今の時代、下請けだけでは先行きが不安。生き残るためには自社開発で勝負していかなければ」と本郷武延社長。“受け身のものづくり”からの脱却を掲げる。

自分たちには技術がある

アスターは、元は本郷社長の出身地、福島県古殿町に本社を置くアスター工業株式会社の秋田工場だった。1990年に設立され、本郷社長は2002年に工場長として赴任。その後、リーマンショックから秋田工場の閉鎖が決まったが、「共に働いた仲間たちの雇用を守りたい」と自ら名乗り出て工場を譲り受けた。取引先がほとんどなく、赤字からのスタートだった。「ダメになるという想像は一切なかった。自分たちには技術がある。その技術で打



開するんだ」と。

会社の存続をかけ、アイデアを出し、社員とともに開発をしながら、営業を続ける日々。現在の主力製品であるLED照明「エナブライト・プロ」シリーズや、単1電池2個で約200時間点灯可能な卓上LEDランプ「スプーンライト」など、さまざまな自社製品が誕生した。

悩みや不自由に開発のヒントあり

「スプーンライト」開発のきっかけは、東日本大震災。停電で避難所生活を送る被災者をテレビで見て、大急ぎで200個製造。横手市が支援を行っていた岩手県釜石市に無償で提供した。

当センターの「企業応援ファンド」を利用して開発した省電力融雪シート「雪どけちゃん®」は、雪下ろしで毎年死者も出る冬の悩みを少しでも軽減したいと考案。それは屋根や玄関、軒下に置くだけの電気式融雪シートで、工事費用がほとんどかからない。また、超熱伝導シートやニクロム線など熱伝導率の高い材料を用いて消費電力を抑えた。「暮らしの悩みや不自由を技術で解消できたら。地域の役に立ち、地域の人の心を豊かにするものづくりに挑んでいきたい。」“技術屋”の誇りをかけ、開発に情熱を注ぐ。①



小ロットから大規模生産まで対応するフレキシブルな量産体制。



省電力融雪シート「雪どけちゃん®」は、冬の悩みを少しでも軽減したい思いから考案。



東日本大震災がきっかけで開発された「スプーンライト」は、被災者を思うシンプルな構造で美しい。

株式会社アスター

秋田県横手市平鹿町浅舞字道川北18-3

TEL.0182-24-1377

FAX.0182-24-0611

http://ast-aster.com